

令和6年度 リハビリテーション学部理学療法学科
実務経験のある教員による授業科目一覧・シラバス

九州栄養福祉大学

一覧

授業科目	担当教員	単位数	授業の概要(どのような経験を持ち、どのような授業を行うか)
運動学 I (学部共通科目)	石橋 敏郎	2	運動学 (kinesiology) とは、ヒトの身体運動のしくみを追求する学問であり、解剖学、生理学及び生体力学を基盤として身体運動を分析する応用化学と言われている。講義は、労災病院での臨床経験を有する教員が、テキストに沿って項目ごとにプリントに記入してサブノートを作成して、内容を十分理解しながら進めていく。授業形態は講義である。
人間発達学	奥田 憲一	2	理学療法の対象者は新生児から高齢者まで広範にわたり、また医療も、疾病中心から対象者と家族中心へ、急性期中心から慢性期中心へ、施設基盤中心から地域基盤中心へと大きく変化している。このことは理学療法士にとって、「人間発達学」を体系的かつ総合的に学習することが不可欠であることを示している。本科目では療育センター等で長年の勤務経験を有する教員が「人間の一生涯にわたる発達」と臨床の結びつきを念頭に授業を進めていく。授業形態は講義である。
理学療法評価学 I	廣滋 恵一	2	理学療法を安全かつ効果的に実施するためには、対象者の疾病や障害の程度を把握する評価が必要不可欠であり、さらには医学的な評価(検査・測定)に加えて、対象者の日常生活活動や職場復帰といった社会参加を考慮した生活機能の評価も重要である。このため、理学療法士には十分な情報収集力と正確な評価技術力を修得することが求められる。授業では、臨床経験を有する実務家教員が、評価の位置づけや目的について解説し、評価結果のとらえ方、基本となる検査・測定の方法等について講義する。
理学療法評価学 II	吉田 遊子	1	理学療法の基本的な検査・測定方法について、臨床経験のある教員が演習形式で授業を実施します。具体的には、疼痛検査、形態測定、関節可動域測定、感覚検査、反射検査について、その目的や測定上の留意点等を確認したうえで、演習を通して検査・測定技術を教授します。さらに、測定結果の解釈については、診療録の記録形式(SOAP)で演習を行います。なお、授業進行に合わせて、プリントを配布しますので、演習活動や復習に活用してください。
理学療法評価	廣滋 恵	1	急性期病院での職務経験を有する教員が教授する。中枢神経疾

学統合演習 I	一、井元淳、神崎良子		患に対する評価では脳血管障害を中心に、また、運動器疾患では整形外科的検査手技について演習を通して指導する。呼吸器疾患に対する理学療法評価では、それぞれの疾患における評価の概念、評価項目の内容、問題点やゴール設定の立案など演習を通して解説する。循環器疾患に対する理学療法評価では、バイタルサインに対する評価や運動負荷試験を中心に演習を行い、障害像への理解を深める。授業形態は演習である。実技やグループワークなどの演習を実施し、疾患別での理学療法評価について理解を深める。
物理療法 I	中藤 佳絵	1	物理療法は、運動療法と並んで理学療法の両輪をなす治療手技であり、「電気、温・寒熱、水、光線、力などの物理的エネルギーを生体に応用することによって、その機能の活性化と恒常性の維持・改善などを計ること」と定義される。この授業は、国立・民間の総合病院での実務経験を有する教員が担当し、それぞれの物理的エネルギーが生体に与える影響を学ぶとともに、臨床で用いる頻度が高い極超短波療法や超音波療法などの温熱療法、牽引療法について演習を通して体験する。その仕組みや化学的根拠を知識として得るとともに、リスクを管理し安全な物理療法の施行を実現する方法を学ぶ。授業形態は演習である。
内部疾患理学療法 I	井元 淳	1	近年、大気汚染や高齢化に伴い、呼吸器疾患患者が増加している。この科目では急性期病院で呼吸リハビリテーションの経験を有する教員が内部障害系理学療法のうち呼吸器分野について解剖学、生理学、運動学など基本的概念から呼吸器疾患や合併症の特徴、呼吸リハビリテーションの意義とその内容などの基礎知識について講義するとともに評価方法や治療手技など実際に健常者を対象とした演習を通して理解を深める。授業形態は演習である。
内部疾患理学療法 II	神崎 良子	1	この授業では、心臓リハビリテーションの実務経験を有する教員が、本邦における死因の第2位である循環器疾患を中心に、疾患の特性や治療法、理学療法評価、プログラムなどを疾患別に解説する。疾患の理解を深めるため模擬症例を提示し、問題点やプログラム立案をグループワーク形式で行う。また循環器疾患と関連の深い糖尿病の理学療法や慢性腎臓病についても解説する。近年各種ガイドラインで理学療法の効果が明らかとなってきたがん患者への理学療法やフレイルについても説明する。授業形態は演習である。
スポーツ系理学療法	時任 真幸	1	スポーツ選手の理学療法においては、スポーツ外傷・障害の特徴を理解し、患部の状態・症状・機能に合わせた支援が必要で

			ある。この授業では、整形外科での臨床経験を有し、アスレティックトレーナーなどの資格を有する教員が、スポーツの活動支援における理学療法士の役割、各疾患に対する理学療法、救急対応などグループディスカッションを取り入れながら学習します。また、実践を通してスポーツ外傷・障害に対するアプローチを学んで頂きます。
予防理学療法	廣滋 恵一	1	予防理学療法はさまざまな疾患や社会システムと関わりがある。具体的には、介護予防・地域包括ケアシステム、メタボリックシンドローム、ロコモティブシンドローム、廃用症候群の予防、認知症の予防、労働災害の予防、再発予防（脳卒中、心疾患、呼吸器疾患、整形疾患など）、スポーツ障害の予防、スポーツを利用した予防、メンタルヘルス、ウィメンズヘルス・メンズヘルス、ヘルスコミュニケーション、コミュニティ・プロモーションのマネジメントなど多岐にわたる。労災病院での長年にわたる臨床経験を有する実務家教員の指導の下、演習を通じて様々なトピックスに触れていく。授業形態は演習である。
地域理学療法学	廣 滋 恵一、奥田 憲一、井元 淳、吉田 遊子、長野 友彦	2	地域理学療法は、医学モデルから生活モデルへの転換を含めて、理学療法士が対象者の実生活の場で支援を行うことである。地域包括ケアシステムが展開されている中、入所・通所施設、訪問リハビリテーション、介護予防などの領域で、また、災害時支援、国際支援といった医療機関以外でも理学療法士の活躍が広がっている。本科目では地域での実務経験を有する教員が講義を行い、地域の様々な領域における理学療法士の役割および多職種連携について学ぶ。
			合計単位数：15 単位

授業科目名	運動学 I		
担当者名	石橋 敏郎	実務家教員	○
授業コード	1200113001	授業形態	講義
学年	1年	開講期	後期
単位数	2単位	履修	卒業・理学療法士・作業療法士 必修
ナンバリング	DP2-1-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	運動学(kinesiology)とは、ヒトの身体運動のしくみを追求する学問であり、解剖学、生理学及び生体力学を基盤として身体運動を分析する応用化学と言われている。講義は、労災病院での臨床経験を有する教員が、テキストに沿って項目ごとにプリントに記入してサブノートを作成して、内容を十分理解しながら進めていく。授業形態は講義である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	前半では、生体力学の基礎知識、運動器の構造と機能(特に関節の構造や筋の働き)及び「てこ」や「ベクトル」などの基本的な計算ができるようになる。 後半では、上肢帯と上肢の正常な関節運動のしくみを理解したうえで、異常な関節運動が起こる原因とそのメカニズムを自ら考察することができるようになる。		
授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間	
1	運動学の領域について、生体力学の基礎 ① (身体運動と力学、身体運動の面と軸)	事後:学習した範囲のテキストを見直し、サブノートを見直したうえで、振り返りシートに記入して理解した後に暗記する(180分)	
2	生体力学の基礎 ② (運動の観測、並進・回転運動、筋力と重力、モーメント、重心と姿勢について)	事前:指定された範囲のテキストを読んで、サブノートに記入して学習する内容を把握しておく(90分) 事後:学習した範囲のテキストを見直したうえで、サブノートを振り返り、振り返りシートに記入して理解した後に暗記する(90分)	
3	生体力学の基礎 ③ (運動法則、身体運動とてこ、てこの種類)、 国家試験問題演習	事前:指定された範囲のテキストを読んで、サブノートに記入して学習する内容を把握しておく(90分) 事後:学習した範囲のテキストを見直したうえで、サブノートを振り返り、振り返りシートに記入して理解した後に暗記する(90分)	
4	運動器の構造と機能 ① (運動器について、骨と関節の構造と機能)	事前:指定された範囲のテキストを読んで、サブノートに記入して学習する内容を把握しておく(90分) 事後:学習した範囲のテキストを見直したうえで、サブノートを振り返り、振り返りシートに記入して理解した後に暗記する(90分)	
5	運動器の構造と機能 ② (腱、靭帯、骨格筋の構造と機能)、国家試験問題演習	事前:指定された範囲のテキストを読んで、サブノートに記入して学習する内容を把握しておく(90分) 事後:学習した範囲のテキストを見直したうえで、サブノートを振り返り、振り返りシートに記入して理解した後に暗記する(90分)	

6	上肢帯と肩関節の運動 ① (機能解剖、関節の構造と機能、関節唇、靭帯の構造と機能)	事前:指定された範囲のテキストを読んで、サブノートに記入して学習する内容を把握しておく(90分) 事後:学習した範囲のテキストを見直したうえで、サブノートを振り返り、振り返りシートに記入して理解した後に暗記する(90分)
7	上肢帯と肩関節の運動 ② (筋作用と運動の特徴、腱板の構造と機能、肩甲骨の位置と運動)	事前:指定された範囲のテキストを読んで、サブノートに記入して学習する内容を把握しておく(90分) 事後:学習した範囲のテキストを見直したうえで、サブノートを振り返り、振り返りシートに記入して理解した後に暗記する(90分)
8	上肢帯と肩関節の運動 ③ (肩関節の動きの特徴、上肢帯の筋)	事前:指定された範囲のテキストを読んで、サブノートに記入して学習する内容を把握しておく(90分) 事後:学習した範囲のテキストを見直したうえで、サブノートを振り返り、振り返りシートに記入して理解した後に暗記する(90分)
9	上肢帯と肩関節の運動 ④ (肩関節に関与する筋群)、国家試験問題演習	事前:指定された範囲のテキストを読んで、サブノートに記入して学習する内容を把握しておく(90分) 事後:学習した範囲のテキストを見直したうえで、サブノートを振り返り、振り返りシートに記入して理解した後に暗記する(90分)
10	肘関節と前腕の運動 ① (機能解剖、肘関節の役割、肘関節の靭帯の構造と機能)	事前:指定された範囲のテキストを読んで、サブノートに記入して学習する内容を把握しておく(90分) 事後:学習した範囲のテキストを見直したうえで、サブノートを振り返り、振り返りシートに記入して理解した後に暗記する(90分)
11	肘関節と前腕の運動 ② (肘関節の回転軸、肘関節の運動、肘関節の運動に関与する筋①)	事前:指定された範囲のテキストを読んで、サブノートに記入して学習する内容を把握しておく(90分) 事後:学習した範囲のテキストを見直したうえで、サブノートを振り返り、振り返りシートに記入して理解した後に暗記する(90分)
12	肘関節と前腕の運動 ③ (肘関節に関与する筋②)、国家試験問題演習	事前:指定された範囲のテキストを読んで、サブノートに記入して学習する内容を把握しておく(90分) 事後:学習した範囲のテキストを見直したうえで、サブノートを振り返り、振り返りシートに記入して理解した後に暗記する(90分)
13	手関節と手の運動 ① (機能解剖、手関節の構造と機能、手根中手関節について)	事前:指定された範囲のテキストを読んで、サブノートに記入して学習する内容を把握しておく(90分) 事後:学習した範囲のテキストを見直したうえで、サブノートを振り返り、振り返りシートに記入して理解した後に暗記する(90分)

14	手関節と手の運動 ② (中手指節関節、指節間関節、腱鞘、指背腱膜について)	事前:指定された範囲のテキストを読んで、サブノートに記入して学習する内容を把握しておく(90分) 事後:学習した範囲のテキストを見直したうえで、サブノートを振り返り、振り返りシートに記入して理解した後に暗記する(90分)
15	手関節と手の運動 ③ (指伸筋腱、骨間筋腱、虫様筋腱、手関節と手の筋、手指の屈筋腱など)	事前:指定された範囲のテキストを読んで、サブノートに記入して学習する内容を把握しておく(90分) 事後:学習した範囲のテキストを見直したうえで、サブノートを振り返り、振り返りシートに記入して理解した後に暗記する(90分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

準備学習は、指定された範囲のテキストを必ず読んでサブノートに記入して、学習する内容をあらかじめ確認しておく。
事後学習は、学習した内容を再度見直したうえで、振り返りシートに記入して、内容を理解したうえで正確に暗記する。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)

定期試験結果	国家試験問題演習		
80%	20%		

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
基礎運動学(第6版 補訂)	中村隆一・他	医歯薬出版株式会社

参考書又は参考資料等

筋骨格系のキネシオロジー(医歯薬出版株式会社)

その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕

講義に対して前向きに臨み、理解できない部分はそのままにせずに教員に積極的に質問してください。
また、図書館やインターネット等を積極的に活用して、運動学に関する文献や本に触れる習慣をつけてください。

担当教員の連絡先等

教員 E-mail	その他

授業科目名	人間発達学		
担当者名	奥田 憲一	実務家教員	○
授業コード	1200022002	授業形態	講義
学年	1年	開講期	後期
単位数	2単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-1-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	理学療法の対象者は新生児から高齢者まで広範にわたり、また医療も、疾病中心から対象者と家族中心へ、急性期中心から慢性期中心へ、施設基盤中心から地域基盤中心へと大きく変化している。このことは理学療法士にとって、「人間発達学」を体系的かつ総合的に学習することが不可欠であることを示している。本科目では療育センター等で長年の勤務経験を有する教員が「人間の一生涯にわたる発達」と臨床の結びつきを念頭に授業を進めていく。授業形態は講義である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 受精から出生後の加齢にともなった身体や精神の発達を説明できる。 2. 人間発達の諸段階(胎児期～老年期)における身体・認知・社会性などの各機能について他者に説明できる。 3. 人間発達の諸段階(胎児期～老年期)における発達課題について説明できる。 		
授業計画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間	
1	全講義の概要・ハーローの実験及び虐待	事前:テキストの通読(90分) 事後:配布資料の完成・課題プリントの復習(90分)	
2	運動発達の基盤となる反射・反応(課題解決)	事前:テキストの通読(60分) 事後:課題解決の要約、配布資料の完成・課題プリントの復習(120分)	
3	背臥位から観察する運動発達(課題解決)	事前:テキストの通読(60分) 事後:課題解決の要約、配布資料の完成・課題プリントの復習(120分)	
4	腹臥位から観察する運動発達(課題解決)	事前:テキストの通読(60分) 事後:課題解決の要約、配布資料の完成・課題プリントの復習(120分)	
5	座位から観察する運動発達(課題解決)	事前:テキストの通読(60分) 事後:課題解決の要約、配布資料の完成・課題プリントの復習(120分)	
6	立位から観察する運動発達(課題解決)	事前:テキストの通読(60分) 事後:課題解決の要約、配布資料の完成・課題プリントの復習(120分)	
7	粗大運動技能から観察する運動発達(課題解決)	事前:テキストの通読(60分) 事後:課題解決の要約、配布資料の完成・課題プリントの復習(120分)	
8	巧緻運動技能から観察する運動発達(課題解決)	事前:テキストの通読(60分) 事後:課題解決の要約、配布資料の完成・課題プリントの復習(120分)	
9	空間知覚とボディーイメージの発達から観察する知性の発達(課題解決)	事前:テキストの通読(60分) 事後:課題解決の要約、配布資料の完成・課題プリントの復習(120分)	

10	言語の発達から観察する知性の発達（課題解決）	事前:テキストの通読(60分) 事後:課題解決の要約、配布資料の完成・課題プリントの復習(120分)
11	知能の発達から観察する知性の発達（課題解決）	事前:テキストの通読(60分) 事後:課題解決の要約、配布資料の完成・課題プリントの復習(120分)
12	感情の獲得プロセスから観察する社会性の発達（課題解決）	事前:テキストの通読(60分) 事後:課題解決の要約、配布資料の完成・課題プリントの復習(120分)
13	共同注意・自己認知・心の理論の獲得プロセスから観察する社会性の発達（課題解決）	事前:テキストの通読(60分) 事後:課題解決の要約、配布資料の完成・課題プリントの復習(120分)
14	道徳倫理的行動の発達から観察する社会性の発達（課題解決）	事前:テキストの通読(60分) 事後:課題解決の要約、配布資料の完成・課題プリントの復習(120分)
15	ライフサイクルとアイデンティティ（課題解決）	事前:テキストの通読(60分) 事後:課題解決の要約、配布資料の完成・課題プリントの復習(120分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

準備学習:シラバスを確認し、講義テーマに該当する教科書部分を通読すること(60分)

事後学習:講義に用いた配布資料と課題プリントと併せて復習すること(120分)

成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)

定期試験	講義前後の課題プリント		
70%	30%		

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
発達を学ぶ 人間発達学レクチャー	森岡 周	協同医書出版社

参考書又は参考資料等

講義計画に沿って随時資料を配布する。

その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕

担当教員の連絡先等

教員 E-mail	その他

授業科目名	理学療法評価学 I		
担当者名	廣滋 恵一	実務家教員	○
授業コード	1210113001	授業形態	講義
学年	1年	開講期	後期
単位数	2単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-1-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	理学療法を安全かつ効果的に実施するためには、対象者の疾病や障害の程度を把握する評価が必要不可欠であり、さらには医学的な評価(検査・測定)に加えて、対象者の日常生活活動や職場復帰といった社会参加を考慮した生活機能の評価も重要である。このため、理学療法士には十分な情報収集力と正確な評価技術を修得することが求められる。授業では、臨床経験を有する実務家教員が、評価の位置づけや目的について解説し、評価結果のとらえ方、基本となる検査・測定の方法等について講義する。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法における評価の位置づけ、目的等について理解し説明できる。 2. 各種検査・測定の目的および方法について理解し、説明できる。 3. 各種検査・測定結果を統合・解釈し、障害等との関係を理解できる。 4. 症例報告の意義を理解することができる。 		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション(授業計画の説明)リハビリテーションの理解(動画視聴)障害とは? 障害の概念とその構造	事前:教科書①:p1~3、②:p18~22(90分) 事後:講義内容・資料の復習(90分)	
2	理学療法における評価の基礎	事前:配布プリントに示す教科書の範囲の確認(90分) 事後:講義内容・資料の復習(90分)	
3	理学療法評価の進め方	事前:配布プリントに示す教科書の範囲の確認(90分) 事後:講義内容・資料の復習(90分)	
4	評価に必要な画像情報の種類と見方	事前:配布プリントに示す教科書の範囲の確認(90分) 事後:講義内容・資料の復習(90分)	
5	医療面接(問診)と情報収集(疼痛検査など)	事前:配布プリントに示す教科書の範囲の確認(90分) 事後:講義内容・資料の復習(90分)	
6	意識障害、全身状態、高次脳機能等の評価	事前:配布プリントに示す教科書の範囲の確認(90分) 事後:講義内容・資料の復習(90分)	
7	形態測定、関節可動域測定の目的と方法	事前:配布プリントに示す教科書の範囲の確認(90分) 事後:講義内容・資料の復習(90分)	
8	徒手筋力検査の目的と方法	事前:配布プリントに示す教科書の範囲の確認(90分) 事後:講義内容・資料の復習(90分)	
9	感覚検査、反射検査の目的と方法	事前:配布プリントに示す教科書の範囲の確認(90分) 事後:講義内容・資料の復習(90分)	
10	筋緊張検査、協調性検査の目的と方法	事前:配布プリントに示す教科書の範囲の確認(90分) 事後:講義内容・資料の復習(90分)	
11	片麻痺機能検査、整形外科的検査の目的と方法	事前:配布プリントに示す教科書の範囲の確認(90分) 事後:講義内容・資料の復習(90分)	
12	姿勢バランス評価、動作分析の目的と方法	事前:配布プリントに示す教科書の範囲の確認(90分) 事後:講義内容・資料の復習(90分)	

13	歩行分析・日常生活活動評価の目的と方法	事前:配布プリントに示す教科書の範囲の確認(90分) 事後:講義内容・資料の復習(90分)	
14	検査測定結果の統合と解釈	事前:配布プリントに示す教科書の範囲の確認(90分) 事後:講義内容・資料の復習(90分)	
15	理学療法評価に基づく症例報告	事前:配布プリントに示す教科書の範囲の確認(90分) 事後:講義内容・資料の復習(90分)	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
教科書の指定範囲を読み、要点をノートにまとめること。事前に授業の資料を配布するので、教科書と合わせて講義内容の予習を行うこと。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
定期試験			
100%			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
①理学療法評価法(第3版)	千住秀明 監修潮見泰藏、下田信	神陵文庫羊土社協同医書出版社	
②リハビリテーション基礎評価学 第2版	明 編集 Helen J. Hislop 他		
③新・徒手筋力検査法 第9版			
参考書又は参考資料等			
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕			
授業のはじめに前回の確認を実施するので復習を行っておくこと。			
担当教員の連絡先等			
教員 E-mail	その他		

授業科目名	理学療法評価学Ⅱ		
担当者名	吉田 遊子	実務家教員	○
授業コード	1210114001	授業形態	演習
学年	2年	開講期	前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-2-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	理学療法の基本的な検査・測定方法について、臨床経験のある教員が演習形式で授業を実施します。具体的には、疼痛検査、形態測定、関節可動域測定、感覚検査、反射検査について、その目的や測定上の留意点等を確認したうえで、演習を通して検査・測定技術を教授します。さらに、測定結果の解釈については、診療録の記録形式(SOAP)で演習を行います。なお、授業進行に合わせて、プリントを配布しますので、演習活動や復習に活用してください。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1) 各種検査・測定の意義と目的を理解することができる。 2) 各種検査・測定に必要な器具を適切に取扱い、正確に測定・記録することができる。 3) 実際の臨床を想定し、対象者へ十分なオリエンテーションをしたうえで、適切な声掛けや指示を与えながら測定を実施することができる。 4) 各種検査・測定の結果を解釈することができる。		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	疼痛検査:痛みの分類、検査手順、記録方法 (書籍②p291-297)	予習:シラバス及び、授業に該当する箇所を一読のこと。 (25分) 復習:授業で演習した「問診」を再度、実施のこと。(20分)	
2	形態測定(1):目的、測定上の留意点、記録方法、ランドマークの確認、上肢長測定(書籍①p167-176)	予習:授業に該当する箇所を一読(15分)し、授業にはテープメジャーを持参のこと。 復習:復習プリントを実施し、授業で演習した測定を再度、実施のこと。(30分)	
3	形態測定(2):下肢長測定、周径測定 (書籍①p167-176)	予習:授業に該当する箇所を一読(15分)し、授業にはテープメジャーを持参のこと。 復習:復習プリントを実施し、授業で演習した測定を再度、実施のこと。(30分)	
4	形態測定(3):周径測定、体格指数、形態測定まとめ (書籍①p167-176)	予習:授業に該当する箇所を一読(15分)し、保健室で体組成を測定のこと。授業にはテープメジャーを持参のこと。 復習:復習プリントを実施し、授業で演習した測定を再度、実施のこと。(30分)	
5	関節可動域測定(1):目的、測定上の留意点、記録方法、肘関節、前腕の測定 (書籍②p56-58、書籍①p229-230)	予習:授業に該当する箇所を一読(15分)し、授業にはゴニオメーターを持参のこと。 復習:復習プリントを実施し、授業で演習した測定を再度、実施のこと。(30分)	
6	関節可動域測定(2):肩関節・手関節の測定 (書籍①p227-231)	予習:授業に該当する箇所を一読(15分)し、授業にはゴニオメーターを持参のこと。 復習:復習プリントを実施し、授業で演習した測定を再度、実施のこと。(30分)	

7	関節可動域測定(3) : 股関節の測定 (書籍①p233-234)	予習:授業に該当する箇所を一読(15分)し、授業にはゴニオメーターを持参のこと。 復習:復習プリントを実施し、授業で演習した測定を再度、実施のこと。(30分)
8	関節可動域測定(4) : 股関節・膝関節の測定 (書籍①p234-234)	予習:授業に該当する箇所を一読(15分)し、授業にはゴニオメーターを持参のこと。 復習:復習プリントを実施し、授業で演習した測定を再度、実施のこと。(30分)
9	関節可動域測定(5) : 頸部、胸腰部の測定 (書籍①p223-225)	予習:授業に該当する箇所を一読(15分)し、授業にはゴニオメーターを持参のこと。 復習:復習プリントを実施し、授業で演習した測定を再度、実施のこと。(30分)
10	関節可動域測定(6) : 肩甲帯、手指の測定、その他の検査法の測定(書籍①p226、231-232)	予習:授業に該当する箇所を一読(15分)し、授業にはゴニオメーターとテープメジャーを持参のこと。 復習:復習プリントを実施し、授業で演習した測定を再度、実施のこと。(30分)
11	関節可動域測定(7) : 関節可動域測定のまとめ(国家試験問題と症例問題)、実技テストについて	予習:診療録の記載方法(SOAP)について、授業の該当箇所を一読のこと。(15分) 復習:授業内容の振り返り(30分)。
12	感覚検査(1) : 目的、測定上の留意点、記録方法、表在感覚検査(書籍②p91-98)	予習:感覚の伝導路について、確認しておくこと。(15分) 復習:授業で演習した測定を再度、実施のこと。(30分)
13	感覚検査(2) : 深部感覚検査、複合感覚検査、まとめ(書籍②p98-101)	予習:感覚障害はどのような疾患に生じ、感覚障害が生じると日常生活上、どのような問題が起こるか考えておくこと。(15分) 復習:授業で演習した測定を再度、実施のこと。(30分)
14	反射検査 : 目的、測定上の留意点、記録方法、深部反射、病的反射(書籍①p203-217)	予習:反射の生理学的機序について、授業の該当箇所や生理学の教科書を一読のこと。(15分) 復習:授業で演習した測定を再度、実施のこと。(30分)
15	まとめ(実技試験の確認、その他)	復習:実技試験要領は熟読のうえ、十分な準備をすること。(45分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

準備学修 : 該当箇所を確認のうえ、必要な測定器具を持参の上、参加してください。

事後学修 : 実技練習は繰り返し行い、解剖学的知識と関連付けて学習してください。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)

定期試験	実技試験	課題、授業ファイルの内容、 授業への参加姿勢	
75%	15%	10%	

使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
①PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学 第2版	潮見泰藏、下田信明・編	羊土社
②理学療法学テキストII 理学療法評価法 第3版	千住秀明 監修	神陵文庫
参考書又は参考資料等		
PT・OT のための測定評価 2 形態測定・感覚検査・反射検査 第2版(三輪書店)		
PT・OT のための測定評価 1 ROM 測定 第2版(三輪書店)		
その他[受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて]		
<p>授業は、教科書内容の説明および教員による実演を行った後に、学生同士で実技を行います。授業には身だしなみを整え、実習着着用、検査器具携帯の上、出席してください。臨床での検査測定は、適切な態度と丁寧なオリエンテーションが求められます。繰り返し練習し、実技習得に努めてください。測定結果についての解釈についての課題提出を求めます。授業で使用するプリント類は配布順に、ファイルに整理しておくこと。適宜、提出してもらいます。</p>		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	

授業科目名	理学療法評価学統合演習 I		
担当者名	廣滋 恵一、井元 淳、神崎 良子	実務家教員	○
授業コード	1210116001	授業形態	演習
学年	2年	開講期	後期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-2-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	急性期病院での職務経験を有する教員が教授する。中枢神経疾患に対する評価では脳血管障害を中心に、また、運動器疾患では整形外科的検査手技について演習を通して指導する。呼吸器疾患に対する理学療法評価では、それぞれの疾患における評価の概念、評価項目の内容、問題点やゴール設定の立案など演習を通して解説する。循環器疾患に対する理学療法評価では、バイタルサインに対する評価や運動負荷試験を中心に演習を行い、障害像への理解を深める。授業形態は演習である。実技やグループワークなどの演習を実施し、疾患別での理学療法評価について理解を深める。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中枢神経疾患、運動器疾患、循環器疾患、呼吸器疾患に対する理学療法評価の意義を理解し、説明できるようになる。 2. 各評価手技を通して臨床における対象者の理解につなげることができる。 3. 各疾患における評価手技を実践することができる。 		
授業計画		準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間	
1	(神崎)循環器疾患に対する理学療法評価① 問診、バイタルサイン	事前:虚血性心疾患、心不全の病態を確認する(45分)	
2	(神崎)循環器疾患に対する理学療法評価② 問診、バイタルサイン演習	事前:心音、血圧、脈拍測定の手順を確認する(15分) 事後:各手技を再度復習する(30分)	
3	(神崎)循環器疾患に対する理学療法評価③ 心電図(不整脈)	事前:心電図の波形の成り立ち、不整脈の種類を確認する(45分)	
4	(神崎)循環器疾患に対する理学療法評価④ 運動負荷試験	事後:運動負荷試験の目的、12誘導心電図の電極位置を確認する(45分)	
5	(神崎・井元)循環・呼吸器疾患に対する理学療法評価⑤ ⑤運動負荷試験演習	事後:運動負荷試験レポート作成(45分)	
6	(井元)呼吸器疾患に対する理学療法評価の実際① (胸郭の体表解剖)	事前:内部障害系理学療法 I の資料を基に体表解剖を確認する(15分) 事後:胸郭の体表解剖の実技を復習する(30分)	
7	(井元)呼吸器疾患に対する理学療法評価の実際② (視診・触診)	事前:内部障害系理学療法 I の資料を基にフィジカルアセスメントを確認する(15分) 事後:フィジカルアセスメントの手順を復習する(30分)	
8	(井元)呼吸器疾患に対する理学療法評価の実際③ (聴診・打診)	事前:内部障害系理学療法 I の資料を基にフィジカルアセスメントを確認する(15分) 事後:フィジカルアセスメントの手順を復習する(30分)	
9	(井元)呼吸分野における疾患別理学療法評価 (誤嚥性肺炎)	事前:誤嚥性肺炎に関する理学療法評価をまとめる(30分) 事後:誤嚥性肺炎に関する理学療法評価をグループで復習する(15分)	

10	(廣滋)中枢神経疾患に対する理学療法評価① 意識障害、筋緊張検査	事前:急性期の理学療法評価について予習する(15分) 事後:意識障害、筋緊張検査について復習する(30分)	
11	(廣滋)中枢神経疾患に対する理学療法評価② 片麻痺機能検査(Br.stage)(12grade)	事前:CVAの理学療法評価について予習する(15分) 事後:CVAの運動機能検査について復習する(30分)	
12	(廣滋)中枢神経疾患に対する理学療法評価④ 平衡機能・移動能力検査	事前:CVAの姿勢バランス・移動能力評価を予習する(15分) 事後:CVAの姿勢バランス・移動能力評価を復習する(30分)	
13	(廣滋)運動器疾患に対する理学療法評価① 整形外科的検査(上肢・体幹)	事前:整形外科的検査(上肢・体幹)について予習する(15分) 事後:整形外科的検査(上肢・体幹)実技を復習する(30分)	
14	(廣滋)運動器疾患に対する理学療法評価② 整形外科的検査(下肢)	事前:整形外科的検査(下肢)について予習する(15分) 事後:整形外科的検査(下肢)実技を復習する(30分)	
15	(廣滋)疼痛性疾患に対する理学療法評価	事前:疼痛性疾患について予習する(15分) 事後:疼痛性疾患の評価について復習する(30分)	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
<p>準備学習:整形外科学や神経内科学、内科学の講義内容を参考に、中枢疾患や運動器疾患、内科系疾患の病態について学修してください。第9回は事前に各自で紙ベースでまとめ、講義開始時に提出を求めます。課題内容は授業内でお伝えします。</p> <p>事後学習:評価の意義や方法を復習した上で、可能な項目は実技練習を行ってください。第9回はグループワークの内容を成果物としてまとめ、講義後に提出を求めます。</p>			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
実技試験	循環器疾患:レポート課題	呼吸器疾患:レポート課題	中枢神経・運動器疾患:小テスト
70%	10%	10%	10%
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
(第1~5回)内部障害理学療法学テキスト	細田多穂監修	南江堂	
(第6~9回)動画でわかる呼吸リハビリテーション 第5版	高橋仁美、他	中山書店	
参考書又は参考資料等			
講義の進度に合わせて、適宜紹介します。			
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕			
<p>第1~8、10~15回は演習を中心に行います。第9回はグループディスカッションを中心に行います。第1~5回ではレポート課題は運動負荷試験演習の結果を基にした運動処方を作成します。レポートへのコメントと返却をもってフィードバックとします。第6~9回では内部障害系理学療法Iの配布資料も持参してください。演習の際は実習着、名札を着用し、頭髪や爪など演習が可能な状態に整えた上で授業に臨んでください。各自が作成したレポートとともに成果物の提出を課します。成績評価に関わるものですので、真剣に取り組んでください。またレポート点は希望する学生には通知します。</p>			
担当教員の連絡先等			
教員 E-mail	その他		

授業科目名	物理療法 I		
担当者名	中藤 佳絵	実務家教員	○
授業コード	1210120001	授業形態	演習
学年	2年	開講期	前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-2-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	物理療法は、運動療法と並んで理学療法の両輪をなす治療手技であり、「電気、温・寒熱、水、光線、力などの物理的エネルギーを生体に応用することによって、その機能の活性化と恒常性の維持・改善などを計ること」と定義される。この授業は、国立・民間の総合病院での実務経験を有する教員が担当し、それぞれの物理的エネルギーが生体に与える影響を学ぶとともに、臨床で用いる頻度が高い極超短波療法や超音波療法などの温熱療法、牽引療法について演習を通して体験する。その仕組みや化学的根拠を知識として得るとともに、リスクを管理し安全な物理療法の施行を実現する方法を学ぶ。授業形態は演習である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> 1.各種物理療法が生体に及ぼす生理学的反応について演習を通して理解する。 2.各種物理療法の適応と禁忌を理解する。 3.各物理療法の手技を修得する。 		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	物理療法とは(位置づけ・歴史・種類)	事後:授業内容をノートにまとめて覚える(45分)	
2	適応と禁忌・リスク管理	事後:授業内容をノートにまとめて覚える(45分)	
3	物理療法の対象となる病態の理解	事後:授業内容をノートにまとめて覚える(45分)	
4	温熱療法とは(種類・生体に与える影響)	事後:授業内容をノートにまとめて覚える(45分)	
5	温熱療法各論:ホットパック・パラフィン浴	事後:授業内容をノートにまとめて覚える(45分)	
6	電磁波と音波	事後:授業内容をノートにまとめて覚える(45分)	
7	温熱療法各論:赤外線・極超短波	事後:授業内容をノートにまとめて覚える(45分)	
8	温熱療法各論:超音波療法	事後:授業内容をノートにまとめて覚える(45分)	
9	寒冷療法とは(種類・生体に与える影響)	事後:授業内容をノートにまとめて覚える(45分)	
10	寒冷療法各論	事後:授業内容をノートにまとめて覚える(45分)	
11	水治療法とは(種類・生体に与える影響)	事後:授業内容をノートにまとめて覚える(45分)	
12	水治療法各論:過流浴・気泡浴	事後:授業内容をノートにまとめて覚える(45分)	
13	水治療法各論:プール浴・ハーバードタンク等	事後:授業内容をノートにまとめて覚える(45分)	
14	光線療法とは(種類・生体に与える影響)	事後:授業内容をノートにまとめて覚える(45分)	
15	光線療法各論:紫外線療法・レーザー光線	事後:授業内容をノートにまとめて覚える(45分)	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
初回の説明をよく聞いて、ノートを必ず準備してください。 学期末に提出をしてもらう予定です。板書を中心に授業を展開します。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
定期試験	授業態度・ノート提出		
70%	30%		
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	

PT・OT ビジュアルテキストエビデンスから身につける物理療法(第2版)	庄本康治	羊土社
参考書又は参考資料等		
物理療法学テキストIX 物理療法 千住秀明 監修(神陵文庫)		
その他[受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて]		
積極的に授業・演習に参加し、疑問点はすぐに質問して解決するようにして下さい。定期試験のフィードバックは、試験の結果が出てから当該学期が終わるまでの期間で、希望者には可否に関わらず個別に行います。		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	

授業科目名	内部疾患理学療法 I		
担当者名	井元 淳	実務家教員	○
授業コード	1210126001	授業形態	演習
学年	2年	開講期	後期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-2-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	近年、大気汚染や高齢化に伴い、呼吸器疾患患者が増加している。この科目では急性期病院で呼吸リハビリテーションの経験を有する教員が内部障害系理学療法のうち呼吸器分野について解剖学、生理学、運動学など基本的な概念から呼吸器疾患や合併症の特徴、呼吸リハビリテーションの意義とその内容などの基礎知識について講義するとともに評価方法や治療手技など実際に健常者を対象とした演習を通して理解を深める。授業形態は演習である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 胸郭の解剖、生理、運動学について理解を深め、説明できるようになる。 2. 呼吸器疾患の特徴とそれに対する評価法、治療法について理解を深め、説明できるようになる。 3. 呼吸器疾患患者に必要な治療法を実践できるようになる。 4. 具体的な症例について分析し、理学療法プログラムを立案する手法を修得する。 		
授業計画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	呼吸器系の解剖学、生理学	事前:呼吸器系の解剖・生理について復習する(15分) 事後:配布資料で学んだことを復習する(30分)	
2	呼吸器系の運動学、呼吸不全の病態と呼吸器疾患① <閉塞性肺疾患(COPDなど)>	事前:呼吸器系の運動学、内科学の呼吸器疾患について復習する(15分) 事後:配布資料で学んだことを復習する(30分)	
3	呼吸器疾患②<閉塞性肺疾患(COPDなど)、拘束性肺疾患(間質性肺炎など)>	事前:内科学の呼吸器疾患について復習する(15分) 事後:配布資料で学んだことを復習する(30分)	
4	呼吸器疾患③(肺炎、呼吸器合併症、外科術後、熱傷など)	事前:内科学の呼吸器疾患について復習する(15分) 事後:配布資料で学んだことを復習する(30分)	
5	呼吸理学療法のための評価①(情報収集、問診、バイタルサイン、フィジカルアセスメント)	事前:呼吸理学療法評価について予習する(15分) 事後:配布資料で学んだことを復習する(30分)	
6	呼吸理学療法のための評価②(臨床検査所見)	事前:呼吸理学療法評価について予習する(15分) 事後:配布資料で学んだことを復習する(30分)	
7	呼吸理学療法のための評価③(胸部画像所見)	事前:呼吸理学療法評価について予習する(15分) 事後:配布資料で学んだことを復習する(30分)	
8	呼吸理学療法のための評価④(摂食・嚥下障害、栄養管理、筋力・運動耐容能、ADL、QOL)	事前:呼吸理学療法評価について予習する(15分) 事後:第1～7回の講義をレポートにまとめる(30分)	
9	呼吸理学療法①(コンディショニング)	事前:呼吸理学療法の実践について予習する(15分) 事後:第1～7回の講義をレポートにまとめる(30分)	
10	呼吸理学療法②(運動療法、ADL練習)	事前:呼吸理学療法の実践について予習する(15分) 事後:配布資料で学んだことを復習する(30分)	
11	呼吸理学療法の実践① (ポジショニング、マッサージ、呼吸補助筋ストレッチ)	事前:コンディショニングについて復習する(15分) 事後:配布資料で学んだことを復習する(30分)	
12	呼吸理学療法の実践② (呼吸介助法、呼吸練習、胸郭可動域練習)	事前:コンディショニングについて復習する(15分) 事後:配布資料で学んだことを復習する(30分)	

13	酸素療法、人工呼吸管理、ICU 管理と理学療法	事前:酸素療法、人工呼吸療法について予習する(15分) 事後:配布資料で学んだことを復習する(30分)	
14	標準予防策と気管吸引、理学療法プログラム立案	事前:気管吸引について予習、呼吸理学療法について復習する(15分) 事後:配布資料で学んだことを復習する(30分)	
15	呼吸理学療法の実践③(気管吸引)、まとめ	事前:気管吸引について復習する(15分) 事後:講義全体を復習する(30分)	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
講義・演習は配布資料を中心に行います。 第1～10回、13～15回はその内容に沿った予習、復習を行ってください。 第11、12回は使用テキストの該当箇所について予習、復習を行ってください。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
小テスト	レポート	定期試験	
10%	10%	80%	
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
動画でわかる呼吸リハビリテーション 第5版	高橋仁美、他	中山書店	
参考書又は参考資料等			
新呼吸療法テキスト(3学会合同呼吸療法認定委員会) 血液ガス・酸塩基平衡教室(メディカ出版) 病気がみえる 呼吸器 Vol.4(MEDIC MEDIA) ※適宜、資料を配布します。			
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕			
内科学の呼吸分野について復習してください。呼吸理学療法では患者様の表情や顔色の変化など観察力が求められます。積極的に講義・演習に参加し、健常者での反応を理解してください。小テストは呼吸リハビリテーションに関連する用語のテストです。範囲は講義時に伝達します。レポートは前半7回分の内容をまとめることが課題になります。課題レポートはこちらから配布し、手書きでの提出になります。どちらも成績評価に関わるものですので、真剣に取り組んでください。			
担当教員の連絡先等			
教員 E-mail	その他		

授業科目名	内部疾患理学療法Ⅱ		
担当者名	神崎 良子	実務家教員	○
授業コード	1210130001	授業形態	演習
学年	3年	開講期	前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP2-3-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	この授業では、心臓リハビリテーションの実務経験を有する教員が、本邦における死因の第2位である循環器疾患を中心に、疾患の特性や治療法、理学療法評価、プログラムなどを疾患別に解説する。疾患の理解を深めるため模擬症例を提示し、問題点やプログラム立案をグループワーク形式で行う。また循環器疾患と関連の深い糖尿病の理学療法や慢性腎臓病についても解説する。近年各種ガイドラインで理学療法の効果が明らかとなってきたがん患者への理学療法やフレイルについても説明する。授業形態は演習である。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法の対象となる代表的な循環器疾患の病態を説明できる。 2. 循環器疾患の基本的な理学療法とリスク管理について説明できる。 3. 代謝性疾患の理学療法の目的と効果、禁忌事項について説明できる。 4. がんのリハビリテーションにおける理学療法士の役割について説明できる。 		
授業計画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	循環器の構造と機能(p11-20) 虚血性心疾患の病態(p21-37)	事前:教科書 p457 症例2の情報について予習(45分)	
2	虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)に対する理学療法(p65-92)	事前:授業の予習(30分) 事後:ワークシート(15分)	
3	心不全の病態と理学療法評価(p25-37)	事前:教科書 p457 症例1の情報について予習(45分)	
4	心不全に対する理学療法(p93-106)	事前:授業の予習(30分) 事後:ワークシート(15分)	
5	末梢血管疾患、大血管疾患の病態と理学療法(p119-147、149-152)	事前:授業の予習(30分) 事後:ワークシート(15分)	
6	循環器疾患に対する理学療法	事前:バイタルサインの測定(実技練習)(30分) 事後:ワークシート(15分)	
7	腎臓の構造と機能、慢性腎臓病の病態と理学療法(p165-178)	事前:授業の予習(30分) 事後:ワークシート(15分)	
8	心臓・腎臓リハビリテーション(p39-63)	事前:授業の予習(45分)	
9	代謝性疾患(糖尿病)の病態と評価(p335-374)	事前:教科書 p467 症例7の情報について予習(45分)	
10	糖尿病に対する理学療法(p375-406、439-454)	事前:授業の予習(30分) 事後:ワークシート(15分)	
11	がんの病態と評価(p407-437)	事前:教科書 p470 症例8の情報について予習(45分)	
12	がんリハビリテーション(p153-163、407-437)	事前:授業の予習(30分) 事後:ワークシート(15分)	
13	加齢に伴う諸問題(重複障害、重症化予防)	事後:配布資料の事前学習(45分)	
14	ウィメンズヘルス・メンズヘルスとリハビリテーション	事前:配布資料の事前学習(45分)	

15	妊産婦、排尿障害に対する理学療法	事前:骨盤と骨盤内臓器の解剖学的構造の確認(30分) 事後:ワークシート(15分)
準備学習・事後学習等についての補足説明		
生理学、内科学および理学療法評価学統合演習 I は関連する科目である。 これらの授業資料を積極的に活用し復習することが望ましい。		
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)		
筆記試験	ワークシート	
70%	30%	
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
内部障害理学療法学テキスト	細田多穂監修	南江堂
参考書又は参考資料等		
「病気がみえる Vol.2 循環器疾患、Vol.3 糖尿病・代謝・内分泌」(メディックメディア社)		
「腎臓リハビリテーション」(医歯薬出版株式会社)		
「がん患者のリハビリテーション」(メジカルビュー社)		
「ウィメンズヘルスリハビリテーション」(メジカルビュー社)		
「15 レクチャーシリーズ 内部障害理学療法学 循環・代謝」(中山書店)		
「循環器病ガイドラインシリーズ」 https://www.j-circ.or.jp/guideline/guideline-series/ (日本循環器学会)		
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕		
ワークシートについては、授業の中で行うワークの他に事後学習課題を提示する。 提出期限を厳守すること。フィードバックは授業時間内に行う。		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	

授業科目名	スポーツ系理学療法		
担当者名	時任 真幸	実務家教員	○
授業コード	1210097001	授業形態	演習
学年	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期
単位数	1 単位	履修	卒業・理学療法士選択必修
ナンバリング	DP3-4-B		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	スポーツ選手の理学療法においては、スポーツ外傷・障害の特徴を理解し、患部の状態・症状・機能に合わせた支援が必要である。この授業では、整形外科での臨床経験を有し、アスレティックトレーナーなどの資格を有する教員が、スポーツの活動支援における理学療法士の役割、各疾患に対する理学療法、救急対応などグループディスカッションを取り入れながら学習します。また、実践を通してスポーツ外傷・障害に対するアプローチを学んで頂きます。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1) スポーツ理学療法の意義・概要について説明できる。 2) スポーツ活動支援における理学療法士の役割について説明できる。 3) スポーツ活動における理学療法について説明できる。		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	スポーツ理学療法の意義・概要について①	事前:指定教科書1の「第1章予習課題」(45分)	
2	スポーツ理学療法の意義・概要について②	事前:指定教科書1の「第1章 AL1:個人での調べ学習」(45分)	
3	前十字靭帯断裂後の腰痛症に対する症例検討① ※グループ別症例検討を行う	事前:指定教科書1の「第1章症例」に対する全体像を把握してくる(45分)	
4	実践:前十字靭帯断裂後の腰痛症に対する症例検討② ※グループ別で検査・測定・プログラム立案	事前:症例に対する検査・測定の意義を調べる(20分) 事後:検査測定後のアセスメントを行う(25分)	
5	実践:前十字靭帯断裂後の腰痛症に対する症例検討③ ※グループ別で理学療法プログラム実践	事前:症例に対する理学療法プログラム(20分) 事後:講義内で出てきた内容を復習する(25分)	
6	下肢のスポーツ外傷・障害に対する理学療法①	事前:指定教科書1の「第8章予習課題」(45分)	
7	下肢のスポーツ外傷・障害に対する理学療法②	事前:指定教科書1の「第8章 AL1:個人での調べ学習」(45分)	
8	前十字靭帯断裂術後に対する症例検討① ※グループ別症例検討を行う	事前:指定教科書1の「第8章症例」に対する全体像を把握してくる(45分)	
9	実践:前十字靭帯断裂術後に対する症例検討② ※グループ別で検査・測定・プログラム立案	事前:症例に対する検査・測定の意義を調べる(20分) 事後:検査測定後のアセスメントを行う(25分)	
10	実践:前十字靭帯断裂術後に対する症例検討③ ※グループ別で理学療法プログラム実践	事前:症例に対する理学療法プログラム(20分) 事後:講義内で出てきた内容を復習する(25分)	
11	上肢のスポーツ外傷・障害に対する理学療法①	事前:指定教科書1の「第9章予習課題」(45分)	
12	上肢のスポーツ外傷・障害に対する理学療法②	事前:指定教科書1の「第9章 AL1:個人での調べ学習」(45分)	
13	肩関節不安定症に対する症例検討① ※グループ別症例検討を行う	事前:指定教科書1の「第9章症例」に対する全体像を把握してくる(45分)	
14	肩関節不安定症に対する症例検討② ※グループ別で検査・測定・プログラム立案	事前:症例に対する検査・測定の意義を調べる(20分) 事後:検査測定後のアセスメントを行う(25分)	

15	肩関節不安定症に対する症例検討③ ※グループ別で理学療法プログラム実践	事前:症例に対する理学療法プログラム(20分) 事後:講義内で出てきた内容を復習する(25分)
準備学習・事後学習等についての補足説明		
講義に関しては小テストを実施しますのでしっかり学習されてください。基本的にはアクティブ・ラーニングとなります。グループで学習を行うので各自責任感を持って行動しましょう。事前学習では講義のキーワードをもとに各自で予習を行い、事後学習では講義内容を復習して下さい。		
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)		
小テスト	演習課題・マナー(授業姿勢含む)	レポート課題
40%	30%	30%
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
理学療法アクティブ・ラーニング・テキスト 骨関節障害理学療法学	学術編集:対馬 栄輝教育編集:有馬 慶美研修協力:加藤 研太郎	株式会社文光堂. 2020
標準整形外科学 第15版	監修:井樋 栄二 / 津村 弘 編集:田中 栄 / 高木 理彰 / 松田 秀一	医学書院. 2023
参考書又は参考資料等		
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕		
実技を行いますので、動きやすい服装で受講して下さい。		
担当教員の連絡先等		
教員 E-mail	その他	

授業科目名	予防理学療法		
担当者名	廣滋 恵一	実務家教員	○
授業コード	1210138001	授業形態	演習
学年	3年	開講期	前期
単位数	1単位	履修	卒業・理学療法士選択必修
ナンバリング	DP3-3-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>予防理学療法はさまざまな疾患や社会システムと関わりがある。具体的には、介護予防・地域包括ケアシステム、メタボリックシンドローム、ロコモティブシンドローム、廃用症候群の予防、認知症の予防、労働災害の予防、再発予防(脳卒中、心疾患、呼吸器疾患、整形疾患など)、スポーツ障害の予防、スポーツを利用した予防、メンタルヘルス、ウイメンズヘルス・メンズヘルス、ヘルスコミュニケーション、コミュニティ・プロモーションのマネジメントなど多岐にわたる。労災病院での長年にわたる臨床経験を有する実務家教員の指導の下、演習を通じて様々なトピックスに触れていく。授業形態は演習である。</p>		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<p>超高齢社会の本邦において、健康寿命の延伸が求められることを理解し、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予防理学療法の定義について説明できる ・予防理学療法の領域について理解することができる ・予防理学療法の実践に向けて計画を立てることができる 		
授業計画	準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション: 予防理学療法とは	事後: 授業内容を整理する(45分)	
2	予防理学療法に関連する制度の理解	事前: 医療保険・介護保険制度について調べる(30分) 事後: 授業内容を整理する(15分)	
3	サルコペニア、フレイル、老年症候群の理解	事前: テキストに目を通す(30分) 事後: 授業内容を整理する(15分)	
4	メタボリックシンドロームの予防について	事前: テキストに目を通す(30分) 事後: 授業内容を整理する(15分)	
5	ロコモティブシンドロームの予防について	事前: テキストに目を通す(30分) 事後: 授業内容を整理する(15分)	
6	廃用症候群、疾病の再発予防について	事前: テキストに目を通す(30分) 事後: 授業内容を整理する(15分)	
7	労働災害の予防について	事前: テキストに目を通す(30分) 事後: 授業内容を整理する(15分)	
8	健康行動理論(SE、TTM など)	事前: 健康行動理論について調べる(30分) 事後: 授業内容を整理する(15分)	
9	予防理学療法領域の研究手法	事前: テキストに目を通す(30分) 事後: 授業内容を整理する(15分)	
10	疫学研究の紹介(実践報告)	事後: 授業内容の整理(課題1)を実施する(45分)	
11	予防理学療法領域の疫学研究	事後: 授業内容を整理する(45分)	
12	予防理学療法の実践準備(計画編)	事後: 情報収集、計画書、評価用紙作成(課題2)(45分)	
13	予防理学療法の実践準備(評価説明1)	事後: 評価種目の実践的練習(45分)	
14	予防理学療法の実践準備(評価技術2)	事後: 評価種目の実践的練習(45分)	

15	予防理学療法の実践(シニアカレッジ参加)	事前:事前準備資料の内容を把握する(30分) 事後:使用物品の整理・記録の整理(15分)	
準備学習・事後学習等についての補足説明			
授業テーマごとに事前学習や事後学習の内容は異なるが、基本はテキストに目を通し、重要箇所をノートに書きだすなど独自のノートづくりを行うこと。事前学習の確認として対話を通じて授業テーマに関するディスカッションを行う。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
ポートフォリオ評価	レポート課題1~2	実践への積極的姿勢	
30%	40%(20%×2)	30%	
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
予防理学療法学要論	大淵修一 浦辺幸夫 監修	医歯薬出版株式会社	
参考書又は参考資料等			
別途、資料を配布する			
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕			
課題レポートは指定した書式で提出すること			
担当教員の連絡先等			
教員 E-mail	その他		

授業科目名	地域理学療法学		
担当者名	廣滋 恵一、奥田 憲一、井元 淳、 吉田 遊子、長野 友彦	実務家教員	○
授業コード	1210140001	授業形態	講義
学年	3年	開講期	前期
単位数	2単位	履修	卒業・理学療法士必修
ナンバリング	DP3・3-A		
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	地域理学療法は、医学モデルから生活モデルへの転換を含めて、理学療法士が対象者の実生活の場で支援を行うことである。地域包括ケアシステムが展開されている中、入所・通所施設、訪問リハビリテーション、介護予防などの領域で、また、災害時支援、国際支援といった医療機関以外でも理学療法士の活躍が広がっている。本科目では地域での実務経験を有する教員が講義を行い、地域の様々な領域における理学療法士の役割および多職種連携について学ぶ。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1) 地域における理学療法士の役割、および関連職種との連携を説明できる。 2) 地域におけるリハビリテーション活動の制度・あり方を説明できる。 3) 地域における対象者への目標設定、理学療法士の介入意義について考えることができる。		
授業計画		準備学習(予習・復習 等)の具体的な内容及び必要時間	
1	オリエンテーション、地域理学療法の特徴(廣滋)	事前:地域理学療法の概要について予習する(90分) 事後:授業内容で学んだことを復習する(90分)	
2	多職種連携の理解(廣滋)	事前:地域理学療法での多職種連携について予習する(90分) 事後:授業内容で学んだことを復習する(90分)	
3	制度の理解(吉田)	事前:地域理学療法の制度について予習する(90分) 事後:授業内容で学んだことを復習する(90分)	
4	入所施設での理学療法(吉田)	事前:地域における入所施設について予習する(90分) 事後:授業内容で学んだことを復習する(90分)	
5	入所施設の実際(吉田)	事後:レポートとしてまとめる(180分)	
6	通所施設での理学療法(井元)	事前:地域における通所施設について予習する(90分) 事後:授業内容で学んだことを復習する(90分)	
7	通所施設の実際(井元)	事後:レポートとしてまとめる(180分)	
8	訪問リハビリテーションでの理学療法(長野)	事前:訪問リハビリテーションについて予習する(90分) 事後:授業内容で学んだことを復習する(90分)	
9	訪問リハビリテーションの実際(長野)	事後:レポートとしてまとめる(180分)	
10	災害時支援(廣滋)	事後:レポートとしてまとめる(180分)	
11	小児分野での地域理学療法(奥田)	事前:小児領域の地域理学療法について予習する(90分) 事後:授業内容で学んだことを復習する(90分)	
12	小児分野での地域理学療法の実際(奥田)	事後:レポートとしてまとめる(180分)	
13	介護予防事業(井元)	事前:介護予防事業について予習する(90分) 事後:授業内容で学んだことを復習する(90分)	
14	介護予防事業の実際(井元)	事後:授業内容で学んだことを復習する(180分)	
15	国際支援(井元)	事後:15回の授業で学んだことを復習する(180分)	

準備学習・事後学習等についての補足説明			
第1～4、6、8、11、13回はその内容に沿った予習、復習を行ってください。			
第5、7、9、10、12回はレポート課題を出しますので、講義後に提出してください。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕※上段:評価項目、下段:割合(%)			
レポート(5回)	定期試験		
50%	50%		
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
理学療法学テキスト 地域理学療法学	浅川 康吉、他	MEDICAL VIEW	
参考書又は参考資料等			
地域リハビリテーション学テキスト改訂第3版(細田多穂、他、南江堂)			
その他〔受講時の注意点、課題(レポート等)に対するフィードバックについて〕			
地域理学療法学に関係する疾患について復習しておいてください。レポートはルーブリックに沿って採点します。レポート作成時にはルーブリックも参考にしてください。			
担当教員の連絡先等			
教員 E-mail	その他		